



木場小だより

教育目標：豊かな心と確かな学力を備えた、
心身ともにたくましい児童の育成
www.3-net13.hakusan.ed.jp/kiba-e



令和6年 3月 18日

小松市立木場小学校
校長 小山貴子

TEL：0761-44-2803
FAX：0761-44-5974
e-kiba@kec.hakusan.ed.jp

9名の卒業生が巣立ちました

15日（金）に卒業証書授与式を行いました。今年度は、ステージ上に新調していただいた校旗を飾り、来賓の方々をお迎えすることができました。保護者やご家族の人数制限もありませんでしたので、多くの方々と一緒に9名を送り出すことができました。愛情いっぱい育ててくださったご家族の皆様、支え見守ってくださった地域の皆様、ありがとうございました。



小学校最後の年は、木場小学校の創立150周年という大きな節目を生かし、自分たちが最上級生として「何をしたのか」「何ができるのか」を一生懸命考え、実現していくという特別な年でした。大人がしたい行事とは別に、皆さんは、自分達の思いを「学校について知りたいこと学びたいこと」「きれいな学校・使いやすい学校にするために」「記念に残すもの」「みんなが楽しみ、仲良くなるための行事」に分けて計画し、全校に呼びかけていきました。「学校について知りたいこと・学びたいこと」は総合的な学習に繋がり、「記念に残すもの」として、学校キャラクター「キバしか」を全校投票で選び、記念樹も植えました。また、「全校で記念写真を撮りたい」「全校が楽しめるイベントをしたい」という思いは、運動会の種目や様々な縦割りの活動に発展し、木場小学校自慢の「学年を超えた仲」がさらに深まりました。

様々なアイデアを実現する中で、周囲の人々と対話し、物事をすりあわせながら工夫することの大切さ、協力しながら物事を成し遂げることの楽しさを知ったことでしょう。仲間に寄り添い、高め合いながら成長してきたあなた方を大変誇りに思いながら、一人一人に卒業証書を手渡しました。

私たちは、日々の生活の中で様々な工夫や努力を繰り返しています。うまくいくこともあればうまくいかないこともあります。むしろうまくいかないことの方が多いかもかもしれません。自分が思い描いていたことがうまく進まない時、皆さんはどんな行動をとりますか。

ある人は「どうして周囲の人は私の思い通りにしてくれないんだ」と不平不満を言います。

ある人は「思い通りにならないけど仕方がない」とあきらめます。

またある人は「どうしたら自分の思いをかなえられるだろう」と考え、相談したり自分で工夫したりして何か方法を見つけます。皆さんが生きる未来の社会は、これまで以上に予測が難しく、その場その場で考え、判断することが求められます。そんな時、周囲に不満を言っても解決につながらないし、あきらめてしまえば思いや願いをかなえることはできません。大切なのは「どうしたらできるのか」という思いを持ち、周囲と相談したり、工夫したり自分なりに努力をしたりすることなのです。

今回の震災では数多くの方が被災され、今なお悲しみと苦しみの中にいらっしゃいます。一方、発災直後から「より多くの命を助けるにはどうしたらよいか」「どうしたらより多くの人に必要な物を届けることができるのか」「あたりまえの生活を少しでも早くとり戻すにはどうしたらよいか」と、様々な人々がそれぞれの立場で考え工夫し、行動を起こしてもいらっしゃいます。復旧・復興はまだまだ先ですが、県内はもちろん、日本国内、いや世界の人々の知恵と力が合わさることで、成し遂げられると信じています。そして私たちもその一人でありたいと思います。

皆さんが木場小学校で話し合いを重ね、実行してきたことは、皆さんが植えた月桂樹の木が来年も再来年も緑をたたくように、卒業した後も皆さんの記憶に残ります。だからこれからも自分の可能性と周囲の支えを信じ、皆さんの対話と経験の中から、自分なりの正解を見つけて、進む人になってほしいと願っています。（校長式辞より）

卒業記念品「図書室用本棚」



今年度の卒業生から卒業記念品として、図書室の本棚をいただきました。在校している間に紹介し、卒業生も使うことができました。この本棚のおかげでこれまで以上に図書室で本を探しやすくなり、助かっています。大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

今年度最後の「木場っ子検定」

今年度最後の「木場っ子検定」を行いました。計算検定を行った5日の朝自習の時間には、全校が静まり返っていました。1年生も真剣な表情で、3学期の学習の成果を発揮していました。合格者は校長室で表彰しました。様々な学習を行った1年間でしたが、学習は積み上げていくものです。今の学年でつけなくてはいけない力を確実につけ、定着させた上で次の学年に繋げてくれることを願っています。



「大谷グローブ」を使って

3学期のスタートに、大谷翔平選手から贈られたグローブを子ども達に紹介し、使い方について考えて欲しいと投げかけたところ、児童会と6年生からアイデアが出ました。



①重さを当てる！！（児童会）

児童玄関には3つのグローブと水1kgが入ったペットボトル、投票用紙、投票用ポストが置かれ、それぞれがペットボトルの重さと比べながら、予想した重さを投票しました。

②グローブをつけ、ボールを的に当てる！！（6年生）

「みんなで遊ぼう運動ファイナル」と称し、6年生が考えました。的にボールを当てた距離を学年ごとに競いました。

その後は、6年生との交流の時間をもちました。

大谷グローブは右手大が200g、右手小が150g、左手が190gだったそうです。なんと3つのグローブそれぞれにピタリ賞の子がいました。ピタリ賞の子と、的あての各学年で一番成績の良かった子が全校の前で紹介されました。

「スポチャレいしかわ」入賞

子ども達の体力アップを狙い、石川県では全市町で「スポチャレいしかわ」に取り組んでいます。各学校が学級ごとに登録し、記録や挑戦した回数を競うものです。種目は「スポチャレ40m」「スポチャレ8の字」「スポチャレシャトルボール」「スポチャレ長なわ」の4つです。そのうち「スポチャレ40m チャレンジ部門」で、本校の3年生が5位になりました。「スポチャレいしかわ」で検索していただくと、競技の説明や成果が出ていますのでご覧ください。

スポチャレ40mとは

「ヨウイ、ドン」でスタートラインから1走目の人がスタートし、2つの三角コーンを回って2走目の人にバトンなどを渡します。順に走って、最後の人がゴールラインを通過したらゴールです。タイムを走った人の数で割ったものが記録として残ります。

